



[秋田市観光クチコミ大使]  
株式会社JTB 東日本提携販売部 東北エリア統括部長

## 秋田が鍵

こ ばやし かず ひろ  
小 林 和 弘 氏

2014年2月に吹雪の秋田駅に降り立ってから3年間秋田市で勤務しました。最初は初めての日本海側での生活に戸惑うこともあったものの、秋田の四季を過ごすにつれてすっかり秋田の「自然」「食」「温泉」そして何よりも「人柄」に魅了されました。この時期は家族が仙台や東京で別々に暮らしており、時折秋田市で集合し一緒に祭りや食を楽しむことができたのも大切な思い出となっています。現在勤務する職場の周辺には同時期に秋田市で勤務され秋田商工会議所でもご一緒した方々がたくさん勤務されていて、時折お会いして秋田の話題や思い出をお話しするのが楽しみとなっています。

在任中、秋田では国民文化祭など大型イベントが開催されましたが、中でも2015年の東北六魂祭が印象に残っています。秋田商工会議所の活動を始めとして様々な形で関わることができましたが、東北各地で行われてきた六魂祭で初めて竿灯にともった灯りは今でも脳裏に浮かびます。関係者の皆様は大変なご苦勞をされたことと思いますが、翌年より開催されている「これが秋田だ！食と芸能大祭典」が今では延べ来場者が17万人を超える大イベントとなっていることは大変素晴らしいことです。

さて、少し前に「東北の景気浮揚、実は秋田県が鍵だった」という新聞記事を拝見しました。東北各県の景気が他5県に与える影響を調査した内容で、他県への波及効果が大いなのは秋田、岩手両県で、東北全体の景気を浮揚させるには両県経済の活性化が欠かせないという内容だったかと思えます。詳細については門外漢ですが、自分の仕事に無理やり置き換えて考えてみました。地域の活性化のために交流人口の拡大はどこでも大きな課

題の一つですが、訪日客にしても日本国内のお客様でも空路や陸路で秋田にお越しいただければその前後で東北の他県へもお立ち寄りいただきますので秋田の観光入込客数の底上げが大切です。観光消費額もまだまだ向上を狙えそうです。秋田にお越しいただくお客様が飛躍的に増えることが東北の交流人口が順調に増えていくための「鍵」であると期待を込めて考えたいと思います。

先日、2021年にJRグループのデスティネーションキャンペーンが「東北」で開催されると発表されました。東北としては36年ぶり、秋田としては2013年以来です。

6県が連携し県境を越えた観光基盤づくりにさらに取り組み交流人口の拡大を目指していくわけですが、ここでもやはり「秋田が鍵」。年々ブラッシュアップされている観光素材としての「自然」「食」「温泉」「祭り」に加えて「秋田犬」「スポーツ」さらには「018（令和）」など秋田の魅力やチャンスは事欠きません。

この「東北DC」を秋田にとっても絶好の機会ととらえ観光関係者のみならずオール秋田で取り組んで、東日本大震災から10年の節目となる「東北DC」の大成功と東北の一層の活性化が、秋田のリードにより実現することを願っております。

秋田ファンのひとりとしても公私ともに精一杯応援していきたいと思っています。

### ■略歴

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 1964年 | 宮城県仙台市生まれ       |
| 1988年 | 宮城教育大学卒業        |
| 同 年   | 日本交通公社(現JTB)入社  |
| 2014年 | JTB東北 法人営業秋田支店長 |
| 2017年 | JTB東北 提携販売事業部長  |
| 2018年 | 4月～現職           |